

2026 年度 白梅学園大学大学院 子ども学研究科修士課程
一般選抜 I 期 社会人特別選抜 小論文課題

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

下記の 2 つのテーマについて答えてください。

なお、答案用紙の冒頭に、各々「A 研究テーマ」「B 課題テーマ」と明記してください。

A 研究テーマ（必須）

本学大学院において、研究として取り上げたいテーマ・内容について、整理して論述してください。（文字数自由）

B 課題テーマ（選択）

次の 2 つの設問（1）（2）から 1 つを選び、選んだ設問番号を冒頭に記し、解答してください。（文字数自由）

設問（1）

2024 年の人口動態統計によれば、2024 年の年間出生数は 686,173 人であり、戦後のピークであった 1949 年の 2,696,638 人の約 25.4%であった。政府は、1989 年の合計特殊出生率が 1.57 となったことを契機として各種の少子化対策を進めてきた。少子化社会対策基本法は、基本的施策として、①雇用環境の整備、②保育サービス等の充実、③地域社会における子育て支援体制の整備、④母子保健医療体制の充実等、⑤ゆとりのある教育の推進等、⑥生活環境の整備、⑦経済的負担の軽減、⑧教育及び啓発を設定している。

上記の少子化社会対策基本法の基本施策の①～⑧までのうち、一つの項目を選び、現状の施策を踏まえて、子育て当事者の視点から現在の課題および今後の施策のさらなる展開について、自らの考えを交え論述しなさい。

設問（2）

出入国在留管理庁によると在留外国人は約 395 万人であった（2025 年 6 月末現在）。また、在留外国人統計によれば 0～19 歳の在留外国人は 44.8 万人であった（2024 年 12 月末現在）。同庁の日本人と外国人との共生社会の実現に向けた政府の取り組みガイドブック『HarmoniUP！ Vol.1』では、取り組むべき中長期的な課題として、①円滑

なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取組、②外国人に対する情報発信・外国人向けの相談体制の強化、③ライフステージ・ライフサイクルに応じた支援、④共生社会の基盤整備に向けた取組が設定されている。

上記ガイドブックの「中長期的な課題」①～④のうち一つの項目を選び、今後求められる具体的な取り組みについて、自らの考えを交え論述しなさい。